

「京都文教大学海外出張助成金」交付による海外出張報告書（1頁）

2010年6月7日提出

申請年度	2010年度（平成22年度）		
所 属	文化人類学科	報告者・職 氏名	教授 潘 宏 立
海外出張内容 (種別に)	目的 「第一回福建系商人国際シンポジウム」に出席し、研究発表を行う。 訪問国・地域 中国(福建省) 助成額 200,000 円		・学 会 (発表有/無) ・調 査 ・会 議 ・セミナー
期 間	2010年5月16日(日) ~ 2010年5月21日(金)		5泊 6日
上記出張期間 の研究・調査 等活動経過	5月16日・・ 関空 福州空港 夜、会議の準備		
	5月17日・・ 午前「第三回世界福建系商人大会」の開催式に参加 午後「第一回福建系商人国際シンポジウム」に出席		
	5月18日・・ 午前、シンポジウムに出席し研究発表を行った。 午後、シンポジウムに出席し研究交流を行った。		
	5月19日・・ 午前、バスで武夷山市へ移動 午後、武夷山漢城博物館考察		
	5月20日・・ 午前、武夷山学院で「第一回福建系商人国際シンポジウム」の 武夷山分会場で、研究会議に参加した。 午後、バスで武夷山市から福州市に移動		
	5月21日・・ 福州空港 関空		
	「第一回福建系商人国際シンポジウム」(中国語:「首屆閩商国際研討会」)は、 「第三回世界福建系商人大会」(中国語:「第三屆世界閩商大会」(福建省人民政府、中華総商会、中華海外連誼会主催)の重要な部分で、福州大学閩商文化研究院により主催された研究大会。アメリカ、フランス、オーストラリア、イギリス、マレーシア、シンガポール、日本、台湾、香港及び中国など、国・地域の約60名の学者はこのシンポジウムに出席し、初めて大規模に全面的に福建系商人の海外での商業やそのネットワークについて、歴史的、文化的に研究を行った。		
	私が長年にわたり調査・研究してきた福建南部農村社会の同族組織及びその国際的なネットワークについて研究発表を行った。私は、泉州地域の蔡姓の同族組織である「済陽柯蔡委員会」についての調査研究は1995年から始め、15年間にわたり追跡調査を続け、一定の研究成果を得た。この発表は最新の研究を取り入れ、まとめて行った。		
	発表において、もっとも強調したのは、福建系商人は東南アジアなど海外での事業展開において同族組織のネットワークを活用したところである。さらにこのネットワークの構造を綿密に解明し、その構造の概念図を描いた。さらに、現在の海外の福建系商人と故郷の人びとの相互作用(政治的、社会的、経済的、文化的な面)を調査で得られた一次資料に基づいて論述した。		
私の発表は文化人類学の調査方法による研究成果で、評価された。			

「京都文教大学海外出張助成金」交付による海外出張報告書（2頁）

2010年6月7日提出

<p>研究・調査 発表等々の 成果の概要</p>	<p>福建系商人は中国の諸地域の商人（例えば晋商、徽商、浙商など）と比較するともっとも海洋性に富むことが、当研究会で再確認された。福建系商人は海のシルクロードで海外諸国と交貿易、中国との海外交流の掛橋となったことが欧文の資料で多く記録されていた。</p> <p>福建系商人のネットワークは、昔から血縁と地域的「宗親会」「同郷会」によるものが特徴的で、現代においてもよく機能している。</p> <p>私の発表は、泉州市石獅地域における最大の姓氏一蔡（約40万）一族の同姓組織（宗族と宗親組織）に関する長期的かつ詳細な調査研究に基づいてまとめたものであった。研究の手法及び研究成果は高く評価された。とくに、同姓組織の国際的なネットワークの構造及びその機能の研究成果は独創的で、好評を得た。</p> <p>このシンポジウムでは、諸外国の学者との交流も行い、収穫が多かった。人類学者のほか、歴史学者、経済学者などが異なる方法で共通の課題を研究し、成果を披露し、今までよく知られていなかった福建系商人の歴史や文化特徴に関する研究を一段高めた。また、この研究会で得られた成果も本学の授業で学生に教えることができると思う。</p>
<p>研究・調査 等の成果 発表予定</p>	<p>図 書：『第一回閩商文化研究』（仮題）を出版予定。私の発表原稿も論文として加筆し、収録される予定。今年度内を予定しているが、詳細は未定。</p>